

ハイデルベルク信仰問答より

問 57 「からだの甦り」は、あなたにどのような慰めを与えますか。

答え それは、この生命が終わった後に、私の魂が、直ちに、かしらなるキリストのもとに受けとられ（ルカ 23:43、ピリピ 1:21）、私のこの肉がキリストの力によって甦らされて、私の魂と再び一つにされ、キリストの輝かしいからだと同じようにされる（I コリント 15:20, 40-46, 54、ヨブ 19:25、I ヨハネ 3:2、ピリピ 3:21）ということであり
ます。

ここでは「復活」について学ぶこととなりますが、復活時に「からだの甦り」が伴うということが重要なポイントでしょう。死後の状態は、魂だけの存在なのではなく、何らかの意味で肉体を持っているようです。また、このことは信じる者に「慰め」を与えるということが前提とされています。この短い「問い」の中だけでもこれだけの要素が詰まっています。

「答え」は大きく二つの内容に分けられます。

- ① この生命が終わった後に、私の魂が直にかしらなるキリストのもとに受けとられ
- ② 私のこの肉がキリストの力によって甦らされて私の魂と再び一つにされ、キリストの輝かしいからだと同じようにされる

以下でこれらの内容を更に詳しく見てまいりましょう。

- ① この生命が終わった後に、私の魂が直にかしらなるキリストのもとに受けとられ

ここで特に注目すべきは「直ちに」という言葉です。すべての人間は肉体の命を失うと、魂と肉体が分離した状態になり、然るべき場所に移されるようです。信者はパラダイスと呼ばれる安息の領域へ、不信者はハデスと呼ばれる審きの領域へ行くと言われています。これらの領域にある魂の状態を「中間状態」と呼びますが、その状態の有無については議論のあるところですが、根拠としては以下のような聖句が挙げられるでしょう。

(1) パラダイス

主イエスはご自分と一緒に十字架につけられた強盗の一人に「**あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます**」（ルカ 23:43）と言われました。ここでは「天国」という表現は使われておらず、最終的な究極の安息の場所に入る前段階の場所であることを示唆します。

(2) ハデス

ルカ 16:19-31 に出てくる「金持ちとラザロ」の話では、生前に贅沢三昧の生活をしてきた金持ちと全身におできのある貧しい人ラザロが登場します。ここでは死後に両者が移された場所に違いがあることが示唆されており、ラザロはパラダイスと思われる所にいるのに対し、金持ちはハデスという苦しみに場所にあります。興味深いのは、この二つの領域において会話が成立しているという点です。これがどのような状態なのかは明確には分かりませんが、ハデスという場所が未だ究極の苦しみに至っていない領域であると考えられることができそうです。

問 57 の答えに含まれる「私の魂が直ちにかしらなるキリストのもとに受けとられ」という事柄は、信者の魂がまだ肉体とは結びついていない状態でパラダイスに入れられることを意味しているでしょう。

② 私のこの肉がキリストの力によって甦らされて私の魂と再び一つにされ、キリストの輝かしいからだと同じようにされる

パラダイスでの一定の期間を経た後（これが時間的な意味を指すのかどうかは不明です）、再臨の主が地上に来られた時、死者の甦りが一斉に起こると考えられています。

地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。（ダニエル 12:2）

この聖句から理解できることは、甦るのは信者だけではなく不信者も同様であるということです。そして、魂だけの状態にあった両者に肉体が与えられ、肉体を保有した状態で両者は究極の領域へと移行します。すなわち、信者は永遠の安息へ、不信者は永遠の審きへ。信者に与えられる肉体は「キリストの輝かしいからだと同じ」朽ちることなき栄光のからだ、栄化された状態です。「栄光のからだ」がどのようなものであるかは、黙示録 21 章の記事から想像することができるでしょう。これこそが「慰め」の内容です。

そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

もはや不快なことは経験したくてもすることができず、永遠に若さが増し加わり、その人が本来持っていたはずの（罪で傷を受けていない）人格が100%取り戻されることでしょう。美と活力の極み、完全が完全を覆い続ける、そのような地上の概念を超越した肉体です。

また、この復活のからだは、地上で保有していた肉体との「連続」と「断絶」があるとも言われています。連続とはその人が誰であるかが分かるアイデンティティの明瞭性、断絶とは罪の性質との完全な別れです。私たちは天国において、初対面の人であっても誰であるかが分かり、地上で何らかの諍いがあった人との関係は決して思い出すことができないのです。